

アケビ科 アケビ属

ミツバアケビ (三葉木通)

Akebia trifoliata (Thunb.) Koidz.

自生環境

林縁、道ばた など

原産地

日本在来

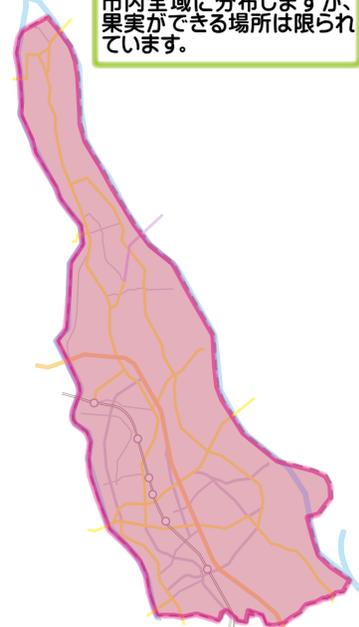
生育を脅かす要因



市内全域の山林内にごく普通に見られ、今のところ絶滅の心配はありません。ただ、山林の開発や荒廃が進んでおり、生育環境が良好とはいえない現状があります。

市内の分布状況

市内全域に分布しますが、果実ができる場所は限られています。



特徴

- ☆ 雑木林とその周辺に普通に生え、旺盛につるをのびしてあちこちに絡みつくように育っています。さらに地下茎を横走ながら広がっていき、株の全容がつかめないほどになります。同じ仲間のアケビといっしょに生えていることも多く、アケビとの間にゴヨウアケビという雑種をつくります。
- ☆ 三葉の名のとおり、小葉は3枚です。葉のふちには波打つような切れこみが入ります。落葉樹ではありますが、冬も葉が残っていることも珍しくありません。
- ☆ 花期は春で、芽吹きとともに開花します。雌雄同株ですが、雄花と雌花があります。雌花は1~3個で花茎の根もとにつきます。雄花は多数で、花茎の先のほうに穂になってつきます。花色はアケビに比べると濃く、ワインレッドのような色です。

なかなか果実ができない

アケビもミツバアケビも、たくさん生えているのにもかかわらず、果実はなかなか見られません。これは結実するためには、ちがう株からの花粉がつかないとダメという性質があるためです。アケビ類は、林内のほうほうからつるが出ていて、何株もあるようでも、じつは全部地下茎でつながっていて、1つの株しかないということも珍しくありません。そのため、結実できる場所は意外に少ないのです。

4月ごろ、芽吹きとともに花を咲かせる



雌花

雌花は1~3個。雄花より大きい

雄花

たくさんの雄花が穂になってつく



果実は熟すと割れて、中から果肉とタネが顔を出す



つるは細いもののしなやかで折れにくく、あちこちに絡みつく

小葉は3枚で縁は波打つ



しょうお小葉

葉はアケビに比べると薄っぺらい



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

